

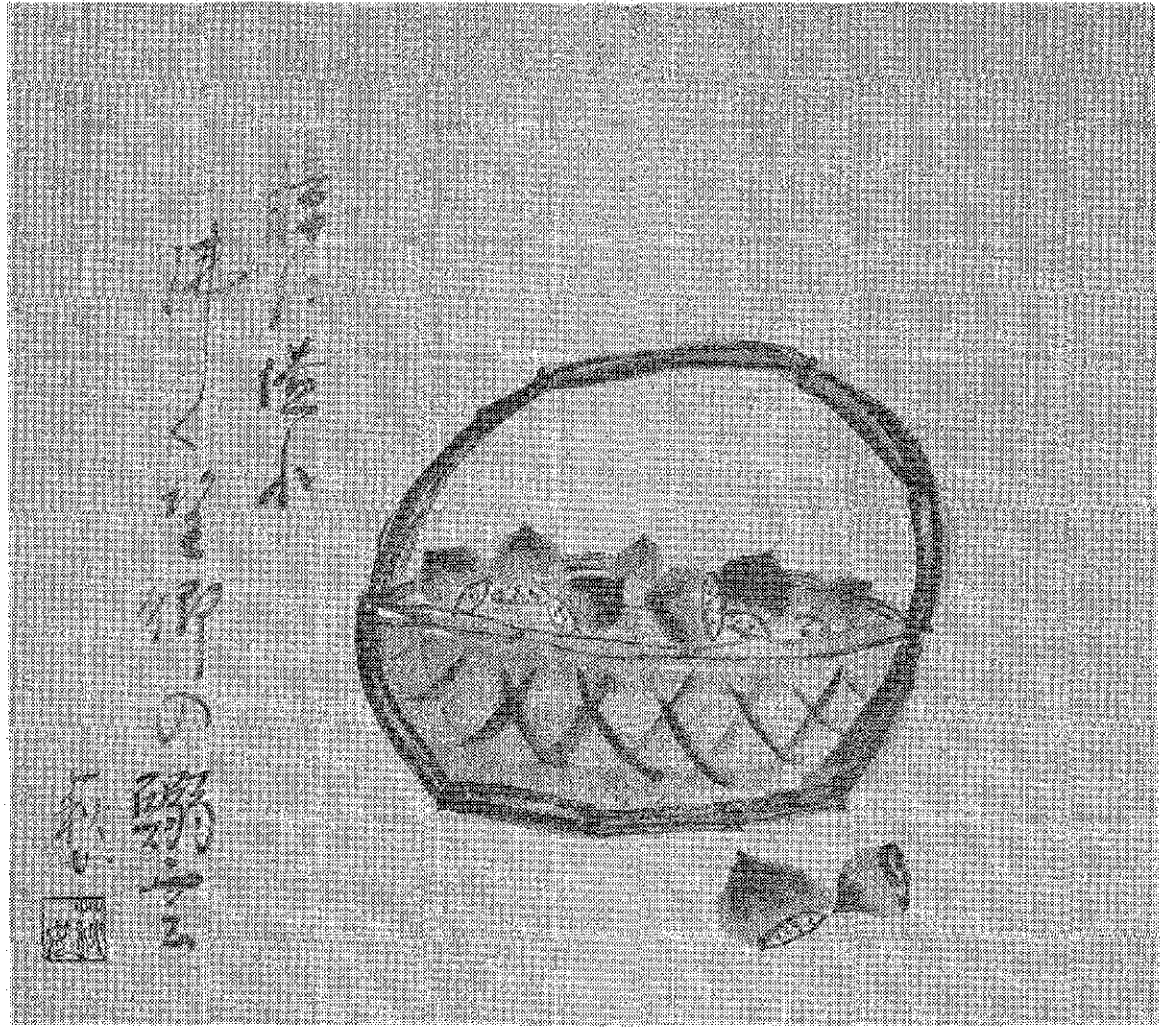
新潟県

公民館月報

昭和58年9月号

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 石井 耕一
編集人 事務局長 本田 清
【定価1部 100円 年共 1,200円】



九月の節句

九月九日を「菊の節句」または「重陽の節句」と言うが、この月の節句ばかりは「くんち」とよび、同月一九日と二九日も一連の「くんち」として祝った。九日を「初くんち」、十九日を「申くんち」、二十九日を「後くんち」と言った。(六日町山村地域)。

そして「初くんち」は月おくれでも十月九日になるので、この日までに間に合うように稲の取り入れを急ぎ、ご馳走とし餅をつき、お互いに親類をよび合った。そして、この晩は夜食に「けんさん焼」を食べるものとしていた。「けんさん焼」というのは、小さめに作った握り飯を焼いて、ショウガ味噌をつけて再び火に当て、これを茶わんに入れ熱湯をかけて食べるもので、焦げた味噌の香がよいものであるが、魚沼地方の郷土食である。

絵・関矢道子(柏崎市中央公民館俳画グループ)
文・「新潟県大百科事典」

公民館総合補償制度

公民館の実態に応じ、加入の種類は自由です。中途加入受付中!

詳細は4月号を参照してください

10月17日は貯畜の日—貯畜して心豊かな生活プラン— 新潟県貯畜推進委員会

どうする基幹施設公民館

二十一世紀の目標を模索

第三十四回県公民館大会は八月二十六日、新潟市の新井文化ホールで六百余名の参加者を集めて開催された。

「二十一世紀を望む公民館活動の指標は何か」をテーマとし、まず経済企画庁審議官坂本正弘氏による「わが国経済の現状と展望」と題する基調講演を聞き、午後は講師六名によるパネルディスカッションとすすみ、即日盛会のうちに幕を閉じた。

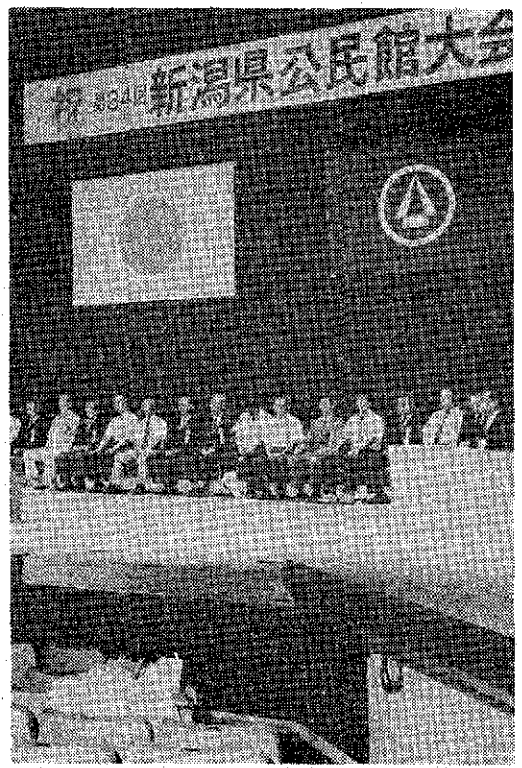
新井市で第34回県公民館大会



(パネル討議・上)
(坂本正弘 講師・左)



上越連合会長野上氏の大会開催宣言、「公民館の歌」の斉唱によって大会の幕はあけられた。県公連会長・県公連連会長石井耕一氏と、県教育長代連陳社教課長大島有史氏による主催者あいさつ。つづいて表彰式にうつる。優長池田正晴氏による歓迎のことば



良公民館として糸魚川市大和川公民館、柏崎中田尻公民館、巻町公民館、民館とこれに公民館運営審議会委員増すが、財政赤字等の問題もあるため、その拡大テンポは緩やかである。わが国はアメリカ・ECと選ぶ三つの極の一つとして、これまで以上に国際経済社会の発展への貢献が求められるようになる。しかし次のような点から見て先進国の中で良好なパフォーマンスを維持するだけの経済的条件を備えている。

1. エレクトロニクスを中心とした技術革新の進展が期待されること。

2. 貯蓄率は、次第に低下するが、他の先進国よりは相対的に高水準を維持すること。

3. 国民のライフスタイルは、生活の時間、場、ニーズの三つ側面それぞれが次のような変遷が進む。

1. 生活時間については、平均寿命の伸長、子供の減少等を背景に自由時間の増大、生産学習への関心の高まり、就業形態、労働時間配分の多様化等が進む。

こうした変遷で、国際経済社会における義務を果し、権利を主張しながら、創発的な社会の構築をめざさなければならない」とするもので、「当面、石油ショック等の不安材料は尙ほ少ない」という結論のようであった。

屋敷をばさみ、パネル討議に入る。パネラーは新井市婦人会長丸山タミ子氏、三条市中央公民館長小倉三治氏、板倉町公民館長宮下桂二氏、上越教育大学教授前田幹氏、新井市長池田正晴氏、県社会

このあと、「わが国経済の現状と展望」と題した経済企画庁国民生活局長坂本正弘氏の基調講演を聞く。要旨はおよそ次のとおり。一九八〇年代のわが国経済社会は、国際環境、経済、国民生活の面で多重的に変化していくものと

これからはどうすべきか (11) 第5回全国公研集会記録から

は土曜日、日曜日と平日の夜間に集中している。

- 公民館の周辺に体育施設が集中しているので人が集まりやすく、施設利用率は非常に高い。特に夜間照明設備がある体育館、運動場は利用率が高い。
 - 施設は学校体育施設の開放にもよりはば完備されているが、利用者が利用時間に束縛されない、独自の社会体育施設の建設に国からの積極的な財政援助をお願いする。
 - 公民館の中に体育施設を設け、健康増進の図れる設備の整備が今後必要である。
 - 人口比にしては社会体育施設は不足であり、学校体育施設を借用している現状にある。
- 2 指導者の問題について (人集めも含む)
- スポーツ指導者講習会で指導者の資格を取得した者、また、独自に公民館で養成した指導者等が各種体育、レクリエーションの指導をしている。指導者の報酬は年一度の慰労会が報酬となっているが、特に問題は無くスムーズに公民館体育事業は実施されている。
 - 社会体育施設が不足している。したがって、指導者が指導する場がない。また、各種体育行事の参加は少なく、同じメンバーが参加することが多い。
 - 高令者が参加するゲートボール教室等については、スクールバスの利用により送迎をし、一人でも多く参加できるように工夫している。
 - 体育館の指導委員と、公民館の指導委員が行事を運営する中で、組織上の問題から地区によっては大変苦慮し、指導していただくことがある。
 - 体育協会々長を公民館々長が兼ねている地域があるが、事業運営上における長所・短所があるので、今後組織づくりの計画がある地域においては十分に研究されたい。
- 3 経費の問題について (行政とのかわりも含む)
- 公民館の事業を他の類似施設で実施している現実である。公民館の建設は現在、年次計画で進めている。
 - 社会体育は、行政主体で実施されており、公民館は主に、講座を開催している現状である。
 - 体育指導員、スポーツ指導員の報酬は、いろいろであり、年間報酬、日額報酬がある。したがって一日当りの出勤手当は各公民館により差が大きい状況にある。

助言者のまとめ

- 公民館では理屈なしで地域住民に、体を動かさせる重要な役割がある。そのためには地域住民に自分の体を知っていただくこと、それが健康診断であり、体力テストである。自分の体の状態を知らせることを、他の機関と連携しながら助言、指導していくのが公民館の役目である。
- 自分が楽しめる、一生できるようなスポーツを住民に見つけ出させることが大事である。
- 体育、スポーツの振興は公民館の役割である「、体育施設はまだまだ充分とはいってない。住民の健康を守り、生活を豊かにし、コミュニティーを作り、文化を高めるには、公民館にも公民館の施設を作るとともに、体育、レクリエーションに対する施設づくりを地域住民の世論づくりに合せて、行政に働きかけることが必要である。そのためには、住民の正しい情報の提供をすることが必要であり、全住民の総参加により、真のスポーツ振興と基礎づくりに公民館が協力する必要がある。
- スポーツ、体育は個人の健康、保持増進であり、体力の増強であるが、今日一番大切なことは、心の健康である。心の健康を大切にす要、支えになる役目をするのが公民館ではないでしょうか。

公民館の目的と理念

1. 公民館活動の基底は人間尊重精神の展開
2. 公民館活動の核心は生涯教育態勢の確立
3. 公民館活動の目標は住民自治能力の向上

「公民館のあるべき姿と今日的指標」より要約

体育・レクリエーションを推進するための課題・

第5回全国公民館研究集会在昨年10月13日・14日長野市で開かれ、このたび記録がまとまった。

この大会では、管理経営部会13分科会、事業活動部会27分科会が設定され管理・経営・事業活動の具体策について熱心に討議された。ここに内容の一部を要約して紹介していきたい。

第一分散会

助言者	城西大学教授	齊藤保夫
司会者	和歌山県公民館連絡協議会副会長	久保田尚三
基調発表者	岩手県東南村中央公民館長	堀米貫一

討議の柱

- 1 体育・レクリエーション活動の定着化
- 2 体育・レクリエーション参加者の組織化
- 3 指導者の養成
- 4 今後の展望

研究討議

- 1 活動の定着化
 - ・教室からクラブに発展していくのを長い目で見守ってやる必要がある。
 - ・中央に集めて行なうだけでなく、各地区を巡回して行なうと、中央の場合と同じ位の人の数を集められ、底辺の拡大が図れる。
 - ・一定の規準を設け、クラブに対し助成を与えたり、体育館等施設の優先利用の権利を与え、定着化をはかる。
 - ・単発的な専門的なものでなく、持続的に簡単にでき、場所をとらないスポーツの発掘を心がける。
- 2 参加者の組織化
 - ・教室を開催し、参加者が独自で活動するサークル等への組織化をはかる。そのために、まづリーダー的存在の人を捜し出し、その人に教室を終えた人々を中心として組織づくりをしてもらう。
 - ・各地区(分館)の中で体育・レクリエーションの希望をとり、中央館(本館)よりリーダーバンク等を利用しての指導者の派遣を行ない、身近な集りのグループ等を組織化する。
- 3 指導者の養成
 - ・教室を行ないサークルを育成し、各種グループが増えたけれども、施設・指導者の不足している現状では、限られたスペース内で有効利用をはからねばならない。
 - ・各種講演会、研修会に参加し技術の習得、資質の向上に努めてもらう。
 - ・日常実践活動の中から有能の者を発見し養成をしていく。
- 4 今後の展望
 - ・市町村独自が、リーダー養成事業、リーダーバンク等を行ない、リーダーの育成をはかっていく。
 - ・家族ぐるみのスポーツ・体力づくりを行ない、スポーツ

を通じて親子の対話をもたせることが、非行防止にも役立つ。

- ・一般の人も参加できるリーダー養成講習会を計画し、人材の発掘を行なう。
- ・保健婦等の開催する健康教室などに、体力づくりを導入していき、体育・レクリエーションへの理解者を拡げていく。

助言者まとめ

- ・公民館では、住民の一番近い所にあり、住民が余暇をすごすための自然指向・健康指向・教養指向をそれぞれの欲求を満たすのに最適の施設である。
- ・住民会議というような会議体を持ち、他団体と調整・行政への調整連絡・計画立案・情報の収集伝達などの機能をもたせて、地域住民との接触をはかり、これを地域づくりの母体としてスポーツ等の振興をはかる。
- ・都市化により、隣近所との付き合いが少なくなるので、そこに住む人々がその地域で生き甲斐をもとめて定着し、その地域に愛着を感じさせるような地域づくり、すなわち、老人から子供まで生き甲斐を、どうつくっていくかを唱える『生き甲斐づくり宣言』を公民館が主体となって唱えてもよいのではないか。
- ・学校教育の社会教育の両者が一体となって、「人間づくり」「地域づくり」を進めていかなければならない現代社会において、地域住民にもっとも近い施設として公民館の役割は大変に大きく、「人間づくり」「地域づくり」について、今後大いに検討し発展させることが望ましい。

第二分散会

助言者	全国公民館連合会理事	千原順一
司会者	秋田県秋田市北部公民館	長原三男
基調発表者	茨城県土浦市上大津公民館	佐野賢治

討議の柱

- 1 施設、設備の問題
- 2 指導者の問題
- 3 経費の問題

研究討議

- 1 施設、設備の問題について
 - ・施設により学校教育施設と併用している施設がある。その為平日の施設使用は困難である。したがって施設利用



県公連表彰

優良公民館紹介

糸魚川市
大和川公民館

1. 沿革

昭和24年 大和川小学校内に設置
昭和46年 糸魚川市役所大和川中継所へ移す
昭和55年 現在地に現施設が竣工

2. 施設内容

●鉄筋コンクリート造 2階建 600.40㎡
会議室 2 (142.06㎡) 調理実習室 (50.74㎡)
軽運動室 (98.75㎡) 図書室 (30.42㎡)
視聴覚室 (40.81㎡) 展示室 (31.85㎡)
事務室 (22.89㎡) その他 (182.88㎡)

3. 職員数

公民館長 1名 (非常勤)
主事 1名 (専任常勤)
臨事 1名 (兼任常勤)

4. 予算状況

総額 2,114,000円
内訳 運営費 722,000円
事業費 1,392,000円

5. 活動状況

●社会体育事業
歩け歩け運動・社年ソフトボール大会・
婦人ソフトボール大会・少年少女球技大
会・大運動会
●文化教養事業

敬老会・文化祭・囲碁将棋大会

高令者教室

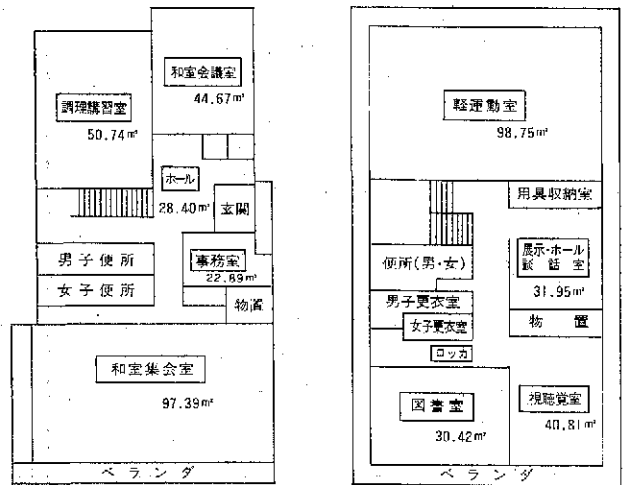
●その他事業

子供会・婦人学級・公民館報発行

アンケート調査

工事費総額 85,823千円

1階 322.16㎡ 2階 278.24㎡



第30回 NHK青年の主張
全国コンクール新潟県大会応募規定

主催・NHK新潟放送局
後援・文部省・新潟県教育委員会
日本青年団協議会・全国公民館連合会
今年のテーマ
(1) 青春・ここに打ち込む

仕事、研究 スポーツ、冒険、アルバイト、ボランティア活動……いまあなたが打ち込んでいるもの、青春を生きていると感じるものは何ですか。

(2) わたしの生き方を変えたもの

ある人物、ある事件、ある書物との出会い。あなたを挫折、失敗から立ち直らせたもの。友情、なまこ同窓の連帯、師の恩、家族の愛情……。あなたはそこから何を学びましたか。

(3) いま日本人のひとりとして

あなたは今まで自分の体験を通して、日本について考えたことがありますか。日本人のひとりとして、若い世代から訴えたいことがあるとすれば、それは何でしょうか。

原稿締切
10月21日(金) 当日消印有効
送り先・問い合わせ
〒951 糸魚川市山形町一四九
NHK新潟放送局「青年の主張」係
電話〇三三三三三三三三三

公民館の文芸誌

公民館を軸として、地域に根をおろした文芸活動がさかんにおこなわれています。

編集部に届けられた公民館関係文芸誌のなかから、今月は新潟市中央公民館の「こもれび」からの随筆を紹介いたします。

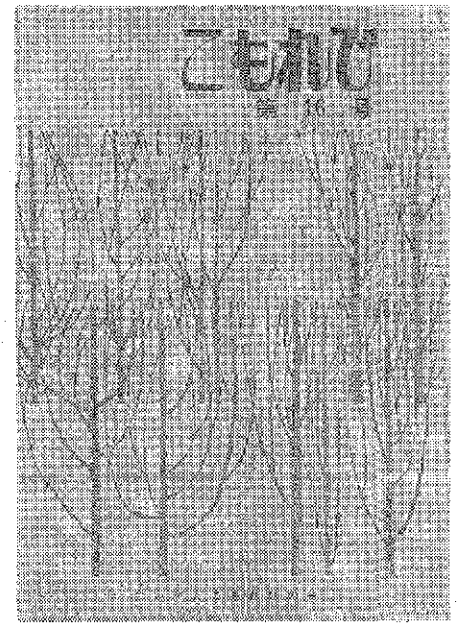
随筆

「海が見たいな」と、米小学人もボートも点、点になってしま
校裏の浜辺へ行ってきました。

五月なかば……とても暖かな
日で、青い海に多数のヨット(此
の風景は初めて目にしたので、と
ても新鮮でした)空を青い色でし
た。でもなせか水平線はよく見
え、佐渡ヶ島は青かすみの中に
淡く浮かんでいました。

活、散歩道、展望台には多数の
人々、子供連れ、中年の夫婦は浜
辺に咲く草花を手に、若い友人同
志、恋人同士の姿は、ハッパと乗
しそうに見えました。

テトラポットにかこまれた中
に、水上スキーを練習している人
の姿、もう少し近くで見ると、思
いながら近づくと、外海へ出て上
手へとボートに誘導され、もがて



作品集を歓迎

公民館で作成した文芸作品集や館報、または広報案内資料などをご恵送ください。毎月上記の欄に紹介してまいりたいと思います。

り、スキーの人が降りました。それながらとる鳥、私の休んでいる
して代りの人が乗りました。剛 散歩道には、種々の雑草の中に、
れていないのか二度海中に落ち、紫の花のまきつね豆のきれいな姿。
三度目は順調に外海へ出て行きま その間が火山のすずめが飛び交っ
した。私は外海で落ちたらどうな ています。

「そう、困ったけえ、ではまた
しほくは遠隔できないね」
「いいえ、そのうちに帰るさ、
家はいいもの……でもあんたは
いいね」
私は「いいわね」の意味を考え
ていました。

「あれがそなたわ、
また、
「あれがそなたわ、
また、
「あれがそなたわ、
また、

「みんなは、日曜とかなんとか
で休みがあるけど、一時間でもこ
のいたみが取れて、私も表を返
人にシヤンと挨拶して、病
人にはいっとも休みがないもの
わね」

「あれがそなたわ、
また、
「あれがそなたわ、
また、
「あれがそなたわ、
また、

「あれがそなたわ、
また、
「あれがそなたわ、
また、
「あれがそなたわ、
また、

プロフィール

和島村公民館主事

古室 栄氏(33才)

公民館活動への参加
申込みも学習計画の打
合せ等、もの静かに
そして大変積極よく心
配したり、その適切な
指導通りに、訪れた人
たちは笑顔となる。見
ていると誠に気持ちよ
い。この窓口で活躍してい
る人が今年四月の移動で公民
館に擔任した「古室栄氏」で
ある。

彼は長らく収入控室勤務経験
をもつ会計事務のベテランで
ある。しかし社会教育関係の
仕事は始めてでベテラン職員
を自指して派遣社理事の渡
辺先生も小黒、八子の両先輩
職員に師事し猛勉強中であ
る。

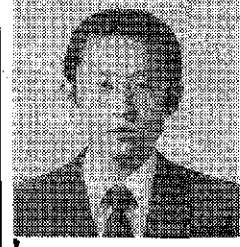
もの静かなが大変明る
い性格の持主でもある。それ
に熱心さも加わって住民の
皆さんから大変頼りにされ慕
われている。主として少年

野球教室、一般社会体育関係
を担当している。彼はそれら
の公民館活動で、青少年の健
全育成にも強力に結びつけて
ゆきたいと意欲に燃えてい
る。

農家の長男で、両親と興
さん、それに子供二人の六人
家族である。公民館は日曜
日、祝日等でも忙しくし
みじみと農作業の手伝いは
できないが、作物を育てること
が好きで少しの暇を利用して
は手入れに余念がない。また
明るい気風作りに一年生懸命
である。やさしい奥さんの内
助の功も非常に大きく、子供
さんを始め一家をまとめて明
闊達である。お酒は多飲は
れないが適量にたしなみ、飲
み会の雰囲気も大変好きなよ
うで、カラオケ設備の大きな
愛好家でもある。

和島村公民館主事
古室 栄氏

次号は、松代町公民館主事
市川英世氏を紹介させていただきます。



「こもれび第16号より」

あの頃のこと

日記を読み返す

松本 十三雄

(1)

自由と回顧録は、自分に都合の

のウソが多いから読む気がなれ

ない、と言ったのは誰だったか。

ウソをつく気はなくても、自分

に都合の悪い事実を忘れたい

赴任の日

昭和十七年の話である。

上野路最終の新潟行き鈍子は、

翌朝下り一番列車として見附駅を

通過する。

その降壇の客は一人だけであ

筆者紹介

大学助教授や新聞記者をもちて

まで「公民館主事」になった人た

ちがいてみると、いまの職員

の皆さんは信じておられるか。

公民館創立のころは、県警部を

うろうろした全道各地に見られ

たしもちろん本県にもその「典



(編集者)

敗戦後、民主主義社会をめざ

うという日本に「公民館活動」が

とり入れられたとき、まっさまに

集ってきたのは、春秋に實り青年

たちであった。新日本建設とい

共通の使命感に燃え、日夜をわ

たぬ活動が続けられていた。

ソバをして、生活者として「生ま

れ故郷」に帰ってきたのだ、とい

う感傷がまですました。十七歳、就

戦で満洲の土を踏んだとき、十九

歳、志願をして海軍に入隊したと

き「二十三歳、志を立てて大学

門をくぐったときの、燃えるよう

な思いと悔みがこぼれていた。

これから就任する公民館主事と

いう未知の仕事への若干の期待と

多少の不安と胸の中によれつ

た。昨夜、野郎のフラットホーム

で、昨夜、野郎のフラットホーム

で、昨夜、野郎のフラットホーム

詩

菩薩像

浅間勝衛

いかなる慈悲

いかなる慈愛

御自身をいいあらわしえませぬ

いかなる快樂

いかなる怨念

の余韻もさめ切つてはならな

た。

今度の転職に必ずしも賛成して

くれている訳ではないが、母の心

も思わぬほどはなごやかだった。

「大蔵事務官という肩書き付きの

名前を使い、田原村のトウモロコ

シに勧められるようになったら

郷土に生きる

どのような縁を辿って、私がく

待たされたのだ。

昭和三十八年八月一日、丸山直

一郎さん(以下「丸直さん」と呼

ぶ)が見附町公民館長に就任され

た。県公運会長に就任されること

も予定されている。ついではその

下に常務理事の仕事を擔うことに

なった。人選を進めたが「お前か

ら帰つて来て欲しい」ということ

の要請があった。承諾して貰いた

い。相次さんの口上は右のような

ものであった。

類まれな語り手(以下「語り手

としよう)は、相次さんの口上を

その深淵をみたとしえませぬ

あゝ 幽明のさかいら

しんしんと結脚跌坐されるあなた

のお姿

もう わたくしには

御自身のほかには何も見えませぬ

作者は元糸魚川市公民館長・
現在一輪玉原越谷市弥十郎4-10

ヒトのまが私にあっては違

かである。今も戻っていないだろ

う。丸直さんには、その人柄への

魅力もあったし、どうだといわれ

て断りの難い理由も負っていた(こ

の経緯については別の機会に触れ

ることにした)。公民館の役割

りについて多少以上の関心はあ

たし、多少の抱負もあった。

「田原村の上司、同僚は局長対し

た、強く感銘された。

こんなどき「郷土に生きる」と

いう言葉を思い返させてくれたの

が北村一男さんだった。北村さん

は後に新潟県知事を勤められるが

この頃は参議院議員であられた。

北村さんとの縁は、参院出馬の際

に北村さんご自身の力で、参院出

馬の際に北村さんご自身の力で、

参院出馬の際に北村さんご自身の

力で、参院出馬の際に北村さんご

自身の力で、参院出馬の際に北村

さんご自身の力で、参院出馬の際

に北村さんご自身の力で、参院出

馬の際に北村さんご自身の力で、

参院出馬の際に北村さんご自身の

力で、参院出馬の際に北村さんご

自身の力で、参院出馬の際に北村

さんご自身の力で、参院出馬の際

に北村さんご自身の力で、参院出

馬の際に北村さんご自身の力で、

参院出馬の際に北村さんご自身の

力で、参院出馬の際に北村さんご

後には郷土の山を拓いて、若者育

成のための私塾を興し、思いつ

いる。若者が國の本だつた。

これが北村さんの誇られる人生

への抱負だった(この話は余り知

られていないようなので、この場

を借りて紹介しておこう)。

日をおいて、私は丸直さんに宛

て「承諾」の手紙を書いた。

丸直さんが公民館長に就任し

専任主事を擔うことがきまると

町の中ではこのボストン自らが

幾人かの自薦、他薦があつた。

う。それらを退けての私だの、あ

る。或る種の冷やかな眼で迎えら

れ、眺められたのだらうと、その

のは、ついでに後のことである。

午前十時、町役場出掛け、町

長から談話をうけた。

「見附町書記室を覗きま。一般職

七等級一号月額八千五百円を給す

る」

日付の七月一日は、私の第二十

八回目の誕生日でもあった。

あとがき

日頃多忙な丸直さん、県大会が

終わっても一刻の暇をもとく

仕事に追いかけてまわります。

そんなある日、県の職員がある

ような通知をもらいました。書

記誌を、委員監査と称してわし

り分ラックスに入っています。当

り分ラックスに入っています。当

り分ラックスに入っています。当

り分ラックスに入っています。当

り分ラックスに入っています。当

り分ラックスに入っています。当